

令和4年度 1人1台端末の活用による実践事例

学 校 名		岡山県立邑久高等学校						
実践者等		池田祐弘	実践日	令和4年5月13日				
実践場面 (教科・科目(単元名)、学校行事等)		数学・数学Ⅱ(式と証明)						
対象生徒(学年等)		普通科2年						
育成を目指す資質・能力		☒ 知識・技能 ☒ 思考力・判断力・表現力等 ☐ 学びに向かう力・人間性等						
分類	授 業 中	☒ クラウドやアプリの活用 ☐ デジタルデータの保存 ☒ 思考やデータの可視化						
		☒ データの共有や共同編集 ☒ 対話を充実させる活用 ☒ 思考を促す活用						
		☐ 表現を充実させる活用 ☐ 課題のやり取りと評価の支援 ☒ 効率化や省力化						
	家庭学習	☐ その他()						
☒ 振り返り ☐ 探究 ☐ 反転学習 ☒ 補習・定着								
実践の内容								
【授業】								
本時の目標 複数の解法が存在する問題について、複数の解法を比較し、それぞれの解法のメリットとデメリットを考える。								
(1) 導入 授業内容とJamboardの説明をする。								
・ 本時の目標の確認をする。また、Jamboardの付箋機能と背景画像の活用法を説明する。								
(2) 展開 複数の解法を比較する。								
・ 複数の解法をかいたプリントを配布し、解法の確認と比較をさせる。								
・ 4人1組のグループを作り、Jamboardを使用してグループごとに解法のメリットとデメリットを付箋機能で書かせる。また、他グループのJamboardを確認させる。								
・ 教員用ChromebookでJamboardをプロジェクターに投影し、良い意見を全体に共有する。補足があれば説明する。								
・ 他の問題を上記の流れで行う。								
解法①が有効な問題								
<table><tr><td>解法①</td><td>解法②</td></tr><tr><td> 簡単な因数分解で答えが出ることが出来る 因数分解をした分母を掛けて分子と約分が出来る 見やすい 通分しやすい 早く答えと求めることが出来る デメリット </td><td> メリット ここからやり方もあるんだ デメリット 因数分解が大変になる 計算がたいへん </td></tr></table>					解法①	解法②	簡単な因数分解で答えが出ることが出来る 因数分解をした分母を掛けて分子と約分が出来る 見やすい 通分しやすい 早く答えと求めることが出来る デメリット	メリット ここからやり方もあるんだ デメリット 因数分解が大変になる 計算がたいへん
解法①	解法②							
簡単な因数分解で答えが出ることが出来る 因数分解をした分母を掛けて分子と約分が出来る 見やすい 通分しやすい 早く答えと求めることが出来る デメリット	メリット ここからやり方もあるんだ デメリット 因数分解が大変になる 計算がたいへん							
どちらの解法でも解ける問題								
<table><tr><td>解法①</td><td>解法②</td></tr><tr><td> 公式があつて簡単に解くことが出来る 計算間違いを減らせる 早く計算できる デメリット 公式を間違えたら答えが出ない 公式を忘れたら詰む </td><td> メリット 公式を覚えておく必要はない 公式を覚えても手間は省ける デメリット 時間がかかる 計算ミスしやすい 計算がめんどくさい </td></tr></table>					解法①	解法②	公式があつて簡単に解くことが出来る 計算間違いを減らせる 早く計算できる デメリット 公式を間違えたら答えが出ない 公式を忘れたら詰む	メリット 公式を覚えておく必要はない 公式を覚えても手間は省ける デメリット 時間がかかる 計算ミスしやすい 計算がめんどくさい
解法①	解法②							
公式があつて簡単に解くことが出来る 計算間違いを減らせる 早く計算できる デメリット 公式を間違えたら答えが出ない 公式を忘れたら詰む	メリット 公式を覚えておく必要はない 公式を覚えても手間は省ける デメリット 時間がかかる 計算ミスしやすい 計算がめんどくさい							
(3) まとめ ふり返しシートをまとめさせる。								
【本時と家庭学習との連動】								
(本時後)授業で扱った問題をプリントで配布し、実際に問題を解く。理解が不十分な生徒はふり返しシートと授業で配布した解法を参考に、理解が十分な生徒は複数の解法で問題を解く。								